



だから僕らは何も言えない

何も言えない
say.

お前は僕らには

Genshin Impact unofficial fan book #02

Diluc * Kaeya

Presented by aive / ui

成人向け

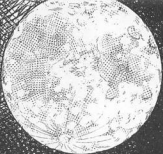
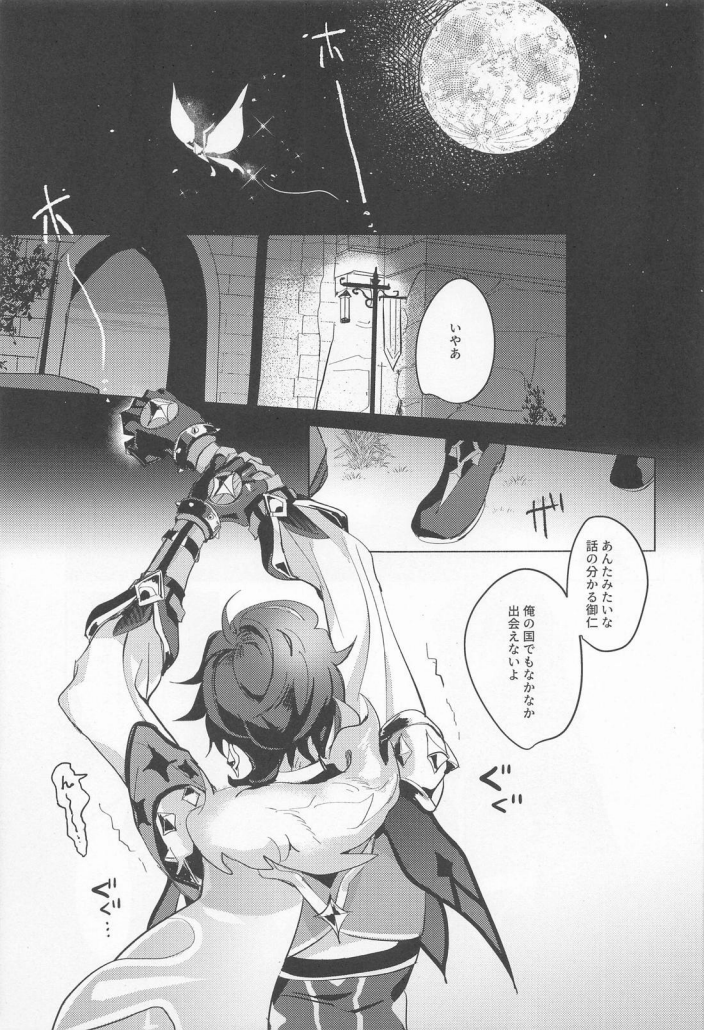
R18

ADULT ONLY



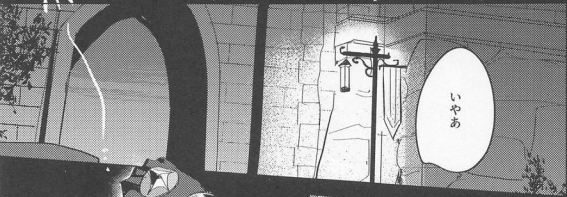
・Ver3.8あたりの時間軸です

だから僕らは何も言えない



ホ

ホ



いやあ



あんたみたいな話の分かる御仁
俺の国でもなかなか
出会えないよ

<"<"

ん

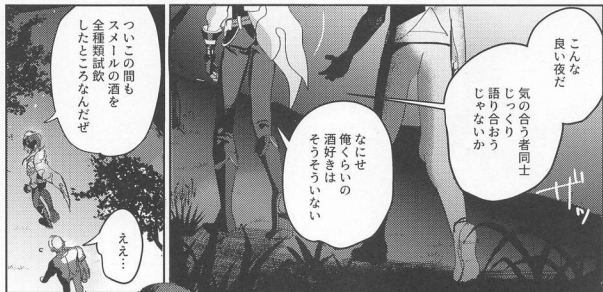
ん...



そうか

そいつは
光栄だ

俺達の出逢いに
感謝しないと...



こんな
良い夜だ

気の合う者同士
じっくり
語り合おう
じゃないか

なにせ
俺らしいの
酒好きは
そうそういない

ついこの間も
スメールの酒を
全種類試飲
したところなんだぜ

ええ...



仕事放って
こんな時間まで
酒の話だ

説得力が
違うだろう？

ははっ

そいつは
違う







…モンドへ
ようこそ

観光なら
昼間に改めた
ほうがいいぜ

ちゃほ

夜中はこの通り
酔っ払いか悪人か

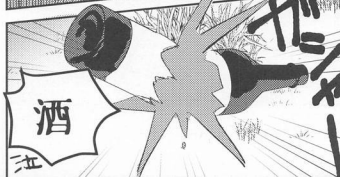
それを見回る兵士しか
いないからな

お
おい
大丈夫か？

あの男
ちよつと
おかしいぞ

それにどう見ても
観光客じゃ……









久々の顔合わせに
この歓迎とはなあ

心配しなくても
今日この巡回路は
俺以外誰も来ないぜ

.....



感心
しないな

馬鹿いうな

これ以上お前の茶番に
付き合ったら
もっと酷い目に
逢ってたさ

今は
わざとだろう



酒場にも
顔を出さず
悪党と逢瀬とは

ずいぶんと
精が出る

察してくれよ
人員不足なんだ



さて

もう少し
泳がせようと
思ってたんだが...

必要ない

製造元を偽った酒を
売り捌いてる連中なら

君の不在時に
僕も調査していた
からな

連中の頭領は今頃
神像の前で
寝ている頃だろう

死



俺には
何か別の用が
あるように
思えるな



ふうん？

それで…

そんなこと言い
わざわざ姿を
見せたのか？



…勤務中
だろう…

ふふん



違う



僕は…



じゃあ
たった今から
休憩だ


それなら文句
ないだろう？



はあ……




誰かさん
こそ



ここ何日か
ずいぶんなご活躍
じゃないか

上が君に目を
つけていても
おかしくないんだ



おかげで
溜まっていた
書類の三割は
闇夜の英雄関係だ

あまり
目立つ行動を
取らない方が良い

夜は大人しく
するもんだぜ





協力をと
言ったな



あつ
じやあつ
あつ

じやあつ
あつ



汚さない
ように

はあ



…できるね

……



んぶが
あつ

あつ

「情報交換と
欲求の解消が
一度にできて
お得だろう」

酒の勢い
とはいえ

あまりに軽薄で
眩暈がした記憶がある

たった一度、
懲らしめる為に、

それで彼もきつと
自分の発言を後悔する
だろうと思っていた





休憩時間内だ

手荒だが
確かに
効率が良いな

……はは



彼も大人の
男だ

事情をとかく
言うつもりはない

ただ

選ぶ相手が
悪い…

「一番理想的な夫婦」
って言われた時は
本当に幸せだったけど

もう今は
呪いでしか
ないわ

だって今は
あの男のせい
で「元」が
付くように
なったんだもの

男なんて
言うことと
やることが
違うのよ

愛なんて全部嘘よ
パイモンちゃん！



そんなの
悲しすぎるぞ!

ワワワ

あっ

なんで
好き合ってるのに
そんなことに
なっちゃうんだよ!?

大人って
そういうものよ

はは
はは

こういう時
酒は悲しみにも
優しいぞ!

飲め
飲め

耳の痛い
話だ



それって
オイラが
スライム料理を
嫌いになるって
ことだろ?



考えられない!
やっぱり絶対に
ありえないぞ!

パイモンには
ちよつと早い
話かもなあ

わい
わい
わい

楽しそうですね
ガイア隊長!

やいの
やいの



ここはいつも
にぎやかだね

しかも今日は
ディルックさんまで
いるなんて

ふふ

パティシエ
様じゃ

君がモンドに
帰ったと聞いた
からね

少しだが
酒場に立てる時間を
作ってきた



君の兄弟のことは
なにかわかったのか

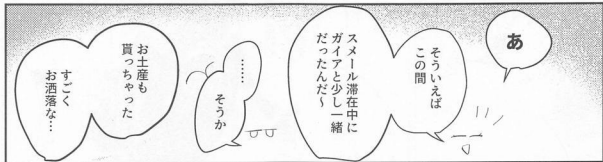
フォンテーヌは
近頃物騒だと
聞いている

なにかあれば
いつでも
力になろう

ありがとう
ディルツクさん

…うん
まあね

少しずつだけど



あ

そういえば
この間

スマイル滞在中に
ガイアと少し一緒
だったんだ

…
そうか

お土産も
買っちゃった

すこく
お洒落な…



水差し
だろう

…失礼

あいつは君の話を
よくするんだ

…二人は
相変わらずだね

やっぱり
知ってるか



もし
知らないうちに
お兄ちゃんが
変わってても

気付けなかったら
どうしよう



.....
こんなに
離れたこと
なかったなあ...



うん...

わたしも
わかってる



君の目的が
兄を探して
見つけ出す
ことなら

その意志さえ
信じていればいい

.....
もしもなんて
考えていても
無駄だ



わかってるん
だけどな...

コト

あれ

これは……?

僕からの奢りだ

君の不安を
和らげるには
すこし足りない
かもしれないが



うたえ!!

自分が大事に
しているもの
ことなら
尚更だろう



……例え
頭で理解できて
いたとしても

感情が言うことを
聞かないなんて
よくあることだ



そんな時が
あるの?



……
ディルック
さんも



そうだ

だから遠ざける
必要があった



目標に
向き合い続け

闇夜を歩き
続けるには



抱え続けた
この感情が



あまりに
眩しく


邪魔だった



あーあ



ここ切れてるぜ



そんなんじゃ
紳士が台無しだ



君が紳士を
語るなんてね

ははは
手厳しいな

闇夜の英雄業で
夜を明かすより

こっちの方が
よっぽど紳士的で
健全じゃないか



それに
楽しい

頭では
理解できている

そんなに
真面目に
考えるなよ

口約束の取引なんて
遊びみたいなものだ



チエスとか
ダーツみたいな...

ちよっとした
娯楽だと
思えばいい

ガキのころは
よくやっつろ

だから
本当に

夕子が悪い





……
ふ

その仏頂面
今する顔じゃ
ないな

せつかくの
おたのしみ
なんだぞ？



…相変わらず
舌が回る
ようだ

し
ふ



揶揄う状況と相手は
よく考えるべきだ

お喋りが過ぎると
墓穴を掘ることになる

は
さ





もう一枚舌が生えてるかと思っただがな

……



そいつは残念……

はは

っあ

ヒクッ



そ……っ

こは

い……

もう慣らしてきた

ぬるぬる……

アッ

おいっ……!

K



は…ッ
んん

す

おま…

待て、

あ、あ

とん…

あ…ッ

とん…

んう…ッ!?



わかった
だろ

ぬほ…

イッちまう



……
ン



……ッ……

!!

も…っ…

おま…

が…
が…





見ろ
……こつちを



ガイア……ッ









でもまあ…

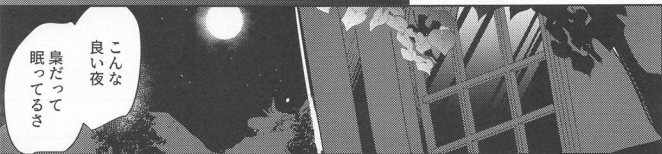
見張ってないと
動き出しかねない
からな

お前が
寝るまでは
いてやろう



ハハッ…
冗談だろ

もう長居する
理由もない



こんな
良い夜

鼻だつて
眠ってるさ



ガイアは
あの日以来

僕との距離を
見誤らない



わざと
センスをずらした
贈り物も

持ちかけてきた
馬鹿げた取引も

いつでも手放す
理由にしている
言われている
みたいだ



君だって

そんな嬉しそうな
顔をするくせに

本当

つれない
やっだな…



つれないのは

お互い様だろう…

だから僕らはなにも言えない

Genshin Impact Unofficial Fanbook #02

Diluc * Kaeya Luckae

感想嬉しいんだけど恥ずかしいので
かわりにおすすめの食べ物とか載せてください



I wholly prohibit the following acts concerning this book:

- Uploading on website or any other social media.
 - Putting up for auction (such as Yahoo! auction,eBay).
 - Resale
- Thank you for your cooperation.

発行：2023 / 12 / 17

印刷：あかつき印刷様

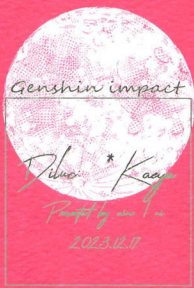
Mail: te.da.re039@gmail.com

Twitter@Gnu__isN

Pixiv: 2407337

Presented by aiue / ui

ネットオークションやフリマアプリへの出品
転売・無断転載・複写・複製を固く禁止します。



Genshin impact

Diluc * Kaeya

Painted by ana 7.11

2023.12.17

unofficial fan book #02

だから僕らは何も言えない

we have
g to say.

So we
nothing